

令和7年10月31日

独立行政法人水資源機構

関西・吉野川支社 淀川本部

あまわかこ

天若湖アートプロジェクト開催20回記念

「気象キャスター講演会in日吉ダム」開催について

水資源機構が管理するダムなどの施設では、降雨量が少ない時期でも水を必要とする地域に安定的に届けられるよう、また、大雨がもたらす洪水をダムに貯留し、下流の浸水被害を軽減するよう運用しています。

刻々と変化する気象現象のうち、特に雨の降り方には、気を配って運用しており、「気象予報」は、とても重要な関わりがあります。

水資源機構では、気象とダム運用との関わりにご関心をいただけるよう、MBSテレビ（毎日放送）にて分かりやすく天気予報を紹介されている前田智宏気象キャスターによる講演会を日吉ダム（京都府南丹市）にて開催します。

また、日吉ダム貯水池（天若湖）にて、かつての集落があった箇所湖面にあかりを灯す「天若湖アートプロジェクト」が2005年から毎年開催され、今年20回目を迎えるにあたり、講演会にてプロジェクトをご紹介します。

この機会に秋が深まる日吉ダムへ訪ねていただき、講演会にぜひご参加下さい。

1. 日 時 令和7年11月16日（日）15：00～16：30

2. 場 所 日吉ダム堤体内ギャラリー

3. 参加方法等 当日14時30分から受付開始 先着順50名様迄 参加無料
プログラム等詳しくは、別添開催案内をご覧ください。

発表記者クラブ：

近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、京都府政記者室、南丹市政記者クラブ

お問い合わせ先：独立行政法人水資源機構 関西・吉野川支社 淀川本部
総務課長 横江（よこえ）
電 話：06（6763）5182

あまわかこ

天若湖アートプロジェクト 開催20回記念

気象キャスター講演会 in 日吉ダム

令和7年 **11月16日(日)** 15:00▶16:30

場所：日吉ダム堤体内ギャラリー

かつての集落があった箇所にあかりが灯される「天若湖」

気象キャスター講演

『“関西のお天気を伝えて”～気象キャスターが見た気象変動と雨～』

MBSテレビよんチャン TV 気象予報士 ^{また} ^{ともひろ} 前田 智宏氏



先着順 当日受付
50名様まで
参加無料



会場アクセス

日吉ダムへ

●お車で越しの方

京都縦貫道園部ICを出て左折し、府道を直進日吉大橋を右折園部ICから約7km

●電車で越しの方

JR山陰線 日吉駅下車 徒歩約30分

講演会場へ

講演会場には道の駅スプリングス ひよしから芝生広場を日吉ダムに向かってたどり、堤体下部入口からインフォギャラリーに進んで下さい。

※防災態勢や災害発生によりやむを得ず当日中止する場合があります。

当日のプログラム

- 14:30 日吉ダム堤体入口にて参加受付開始
- 15:00 前田智宏 気象キャスター講演
- 15:50 天若湖アートプロジェクトの紹介
- 16:10 参加者の皆様との対談
- 16:30 閉会

天若湖アートプロジェクト

日吉ダム貯水池天若湖にて「あかりがつなぐ記憶」をメインプログラムとして開催しつつ、上流と下流を繋ぎ自然や社会のことを考える様々な実践を展開されています。

2005年から始まったプロジェクトは、今年20回目を迎え11月15、16日に開催されます。

●主催 **水資源機構**

●協力 天若湖アートプロジェクト実行委員会

天若湖アートプロジェクト

検索

天若湖アートプロジェクト紹介サイト▶

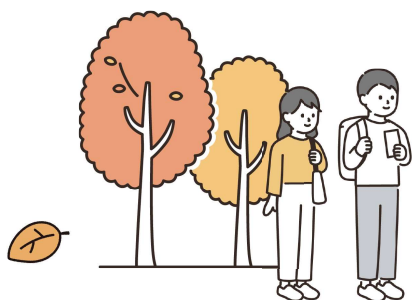


講演会場のご案内

●講演会場

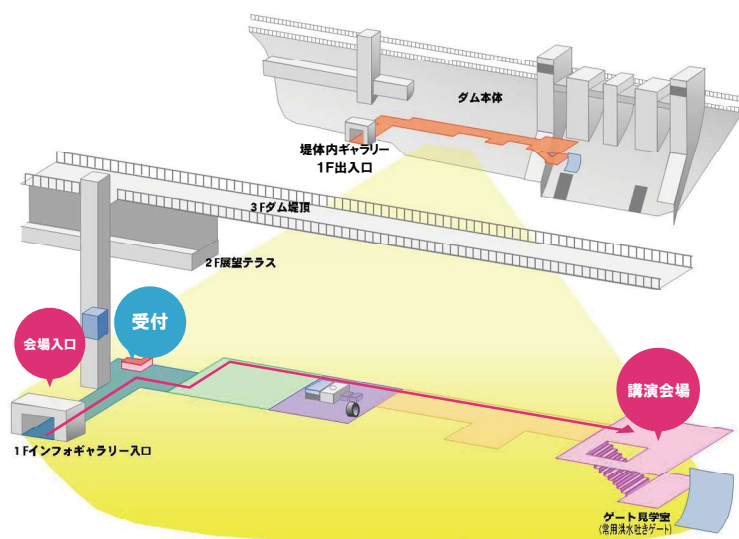
〈道の駅 Springs ひよし〉から〈芝生広場〉を通り、
〈日吉ダム堤体下部入口〉から〈受付〉に進んで下さい。

- 11月16日(日)14:30から日吉ダム堤体内
ギャラリー入口にて先着順に受付いたします。
- 受付で整理券を受け取られた方は、開演時間
の15:00までに、堤体内ギャラリーの
講演会場へお越しください。



〈講演会参加にあたってのお願い〉

- 進行の妨げとなる行為や他のお客様のご迷惑となる行為、
及びご飲食はご遠慮ください。
- やむを得ず退席される場合は、会場スタッフにお申し出
ください。



日吉ダムについて



日吉ダムホームページこちら

日吉ダムは京都府、大阪府、阪神地区、伊丹市で必要な水道用水を確保し、桂川流域での洪水による浸水被害を防ぐ多目的ダムとして、昭和46(1971)年から建設事業に着手し、平成10(1998)年4月から管理を開始しました。

○型式：重力式コンクリートダム ○高さ：67m ○堤頂長：438m ○総貯水容量：6,600万m³

【利水】水不足に備える

雨が降らない日が続いて川の水量が減ったときは、必要な水を川から取水できるよう、また、川の自然環境を保つよう、ダムに貯めた水を補給します。水道用水として、京都府、大阪広域水道企業団、阪神水道企業団、伊丹市に合計毎秒3.7m³を供給し、約100万人分の暮らしを支えています。

「湯水を乗り切る水インフラの力」
湯水時にダムが担う役割などを紹介しています。



下流に水を補給し続けたダム貯水池の様子
令和5(2023)年12月 日吉ダム

【治水】洪水に備える

大雨により、急激に川の水量が増え洪水になると浸水する被害のおそれがありますが、洪水を一時的にダムに貯めて浸水被害を防ぐ役割もあります。

日吉ダムでは、平成25(2013)年9月に襲来した台風18号による大雨がもたらした洪水をダムに貯留して下流への流量を9割以上減少させ、水位を下げることで浸水被害の拡大を防ぎました。

近畿の広い範囲に洪水をもたらした平成25(2013)年9月台風18号の記録を紹介しています。(国土交通省近畿地方整備局ホームページより)



洪水を貯めたダムの様子